

肝臓通信

発行 田中内科クリニック



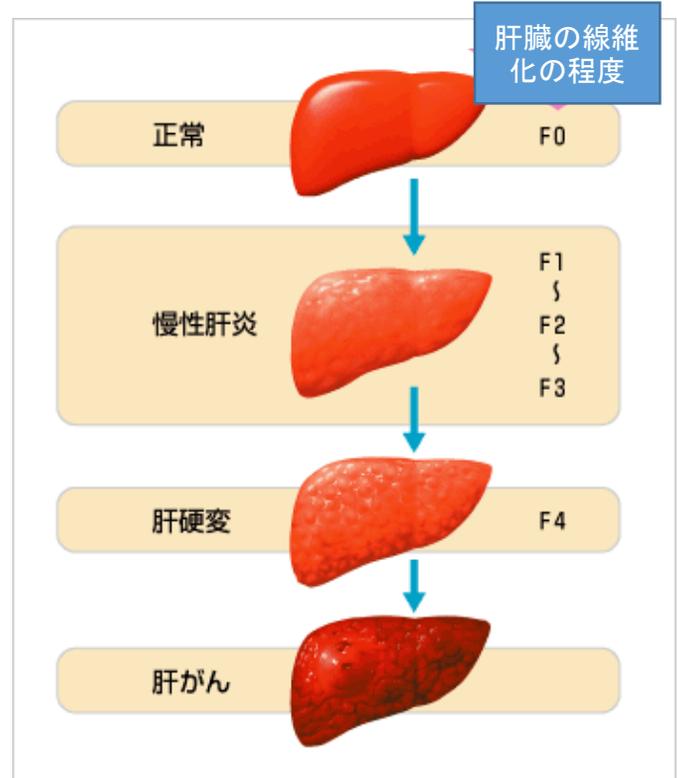
Vol. 02

H28年4月号

肝がん最大のリスク、 C型肝炎のお話し

日本で、C型肝炎に感染している人は約180万人と言われています。C型肝炎の進行度は肝臓の線維化の程度によってF1(軽度)からF4(肝硬変)に分けられます。C型肝炎はゆっくり進行し、次の段階に移行するのに5~10年かかるとされています。しかし着実に進行し、1年間に肝がんが発症する割合は、段階が進むほど高くなることがわかっています。そのため、その後の進行状況を見るために、定期的(2~3ヶ月ごと)に検査を受けることが大切です。そして、自分がいまどの段階にいるかを知ることが大事なのです。

(いまどこ!?)



飲み薬だけで治る！ C型肝炎

これまでは・・・

これまでのC型肝炎治療の中心になっていたのは、インターフェロンという注射薬です。

この時代、インターフェロンの副作用が多くの患者さんを苦しめていました。

特に高齢者の方の中には、多くの副作用に耐えられず、治療を中止せざるを得ないという患者さんもいらっしゃいました。

しかし、今や副作用のほとんどない、飲み薬だけで治る時代になったのです！



*費用や公費援助などについては
当院にご相談ください。

❀ 新薬の登場 ❀

C型肝炎ウイルスに直接作用する新しい抗ウイルス剤(ハーボニー・ヴィキラックス)が使えるようになりました。これまでの治療結果や代償性(軽度の)肝硬変の有無、年齢にかかわらず、飲み薬による治療で9割以上の方がウイルス排除に成功しています。すなわち、これまでの治療では、治療を受けたくてもインターフェロンの副作用などにより治療を受けられなかった高齢者の方も、治療、そして治癒のチャンスが大きく広がったといえます。

<ハーボニー>



表 裏

<ヴィキラックス>



表 裏